

きゅうせいきゅうれいせんめい
九成宮醴泉銘 1

(教科書 34 ～ 37 ページ)

名前	年 組 番	学習日	月 日

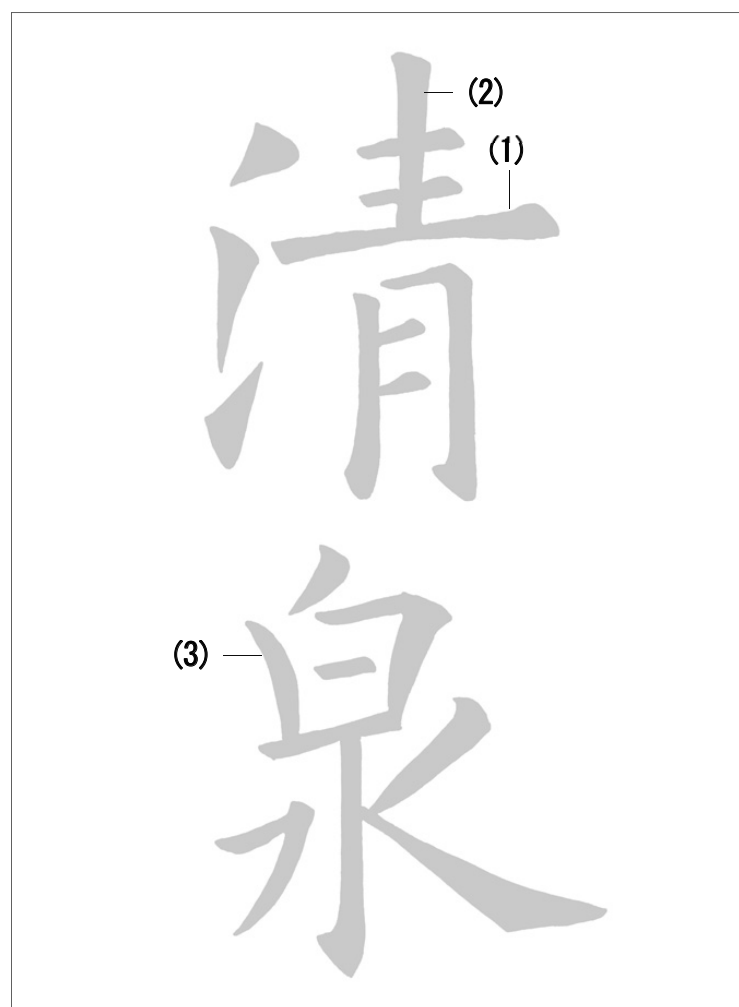
①「九成宮醴泉銘」の筆者と制作された時代、および制作年を答えましょう。(教科書 34 ページ)

筆者 () 時代 () 制作年 () 年

②「九成宮醴泉銘」のイメージ(風趣)を、次の A ～ C から選びましょう。(教科書 34 ～ 37 ページ)

A 抑揚があり、軽快な書風。 B 力強く、たくましい書風。 C 鋭く、緻密な書風。

③「九成宮醴泉銘」の用筆や字形、点画の特徴を捉えましょう。(教科書 34 ～ 37 ページ)



①上の臨書手本に見られる、用筆や字形、点画の特徴を書き込みましょう。

(1)直線的で () 点画

・各点画は角度をつけて起筆し、鋭角的な点画をつくる。

(2) () に構成された点画

・横画は等間隔に配置する。
・接筆の部分に工夫が見られる。

(3)縦長で ()

・転折は鋭角的に書く。
・縦画は内側に () ように書く。

②「緻密な構成」、「縦長で背勢」が

表れていると思う文字や部分を、
教科書 34 ・ 35 ページからそれぞれ抜き出しましょう。

緻密な構成

縦長で背勢

④次の活動例を参考に、右の臨書手本を分析し、特徴を捉えて臨書しましょう。(教科書 37 ページ)

(例)

- ・中心線を書き込む。
- ・骨書き(点画の中心線のこと)を書き込む。
- ・補助線を引いたり、特徴的な部分を丸で囲んだりして、気づいたことを書き込む。
- ・外形を□、△、□などで囲む。
- ・籠字(点画の輪郭を囲むこと)をとる。

◎自己評価 A:よくできた B:できた C:もう一歩

- ・「九成宮醴泉銘」の字形の特徴を理解し、書風や全体の雰囲気をつかむことができましたか。()
- ・書風と表現要素との関わりを、主体的に分析することができましたか。()

きゅうせいきゅうれいせんめい
九成宮醴泉銘 2
(教科書 34～37 ページ)

名前	年 組 番	学習日
		月 日

1 次の臨書手本に、外形(□、△、○など)や骨書きを書き込み、文字の特徴を分析しましょう。



2 矢印の画の筆順を()に書きましょう。(教科書 35 ページ)

鉅 () 画目

鹿 () 画目

撰 () 画目

觀 () 画目

壽 () 画目

3 文字をなぞり書きして書風を捉えてから、硬筆で臨書しましょう。

成 之 宮 此 則 隨 之 仁

壽 宮 也 冠 山 抗 殿 絶

4 「九成宮醴泉銘」の書風を意識して、自分の学校名と名前を書いてみましょう。

学校名	名前

蓬萊切

(教科書 86・87 ページ)

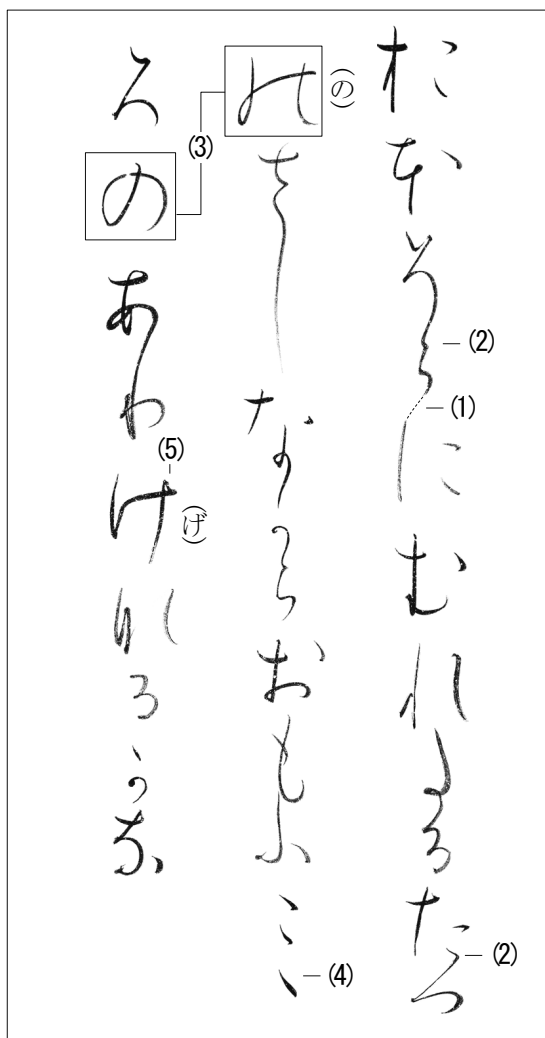
名前

年 組 番 学習日 月 日

1 「蓬萊切」が書かれた経緯や内容について、答えましょう。(教科書 86・87 ページ)

「蓬萊切」は、() () 世紀半ばに書かれたと伝えられる。もとは、一枚の
 継紙に『拾遺和歌集』『拾遺抄』『後撰和歌集』の () () (祝歌) を五首書いたもので、
 「() () ともよばれていた。青い繊維を、たなびく雲のように漉き込んだ」 () とい
 う料紙が用いられている。旧所蔵者の庭園の名 () () にちなんで、この名がついた。

2 「蓬萊切」の表現の特徴について、空欄に当てはまるものを書き込みましょう。(教科書 87 ページ)



- (1) () (筆使い)
- (2) () (文字と文
字とを続けて書くこと)
- (3) 平仮名と () ()
を使い分けている
- (4) () (繰り返し
記号)
- (5) () (がない)

3 仮名の基本的な筆使いを生かして、「蓬萊切」を練習しましょう。(教科書 86・87 ページ)

ねむらむにむねなる
 ねむらむにむねなる
 ねむらむにむねなる

◎ 自己評価 A…よくできた B…できた C…もう一歩

- ・仮名の基本的な筆使いを意識して書くことができましたか。() ()
- ・平仮名と変体仮名による表現の工夫を捉えることができましたか。() ()

手紙の書き方 2

(教科書 132・133 ページ)

※適宜、拡大してご利用ください。

1 手紙でよく使う言葉や、時候の挨拶を練習しましょう。(教科書 133 ページ)

拝啓 敬具

前略 草々

お元気ですか

拝啓 敬具

前略 草々

お元気ですか

こんにちは

さようなら

こんにちは

さようなら

1月・新春の候

・寒さがひとしお身に
しみる頃となりました。

7月・盛夏の候

・いよいよ本格的な夏が
やってまいりました。

2月・立春の候

・梅のつぼみもほころぶ
季節となりました。

8月・立秋の候

・日中は今なお厳しい暑さ
が続いております。

3月・春分の候

・日ごとに春の訪れを感じ
るようになりました。

9月・秋分の候

・ひと雨ごとに涼しくなっ
てまいりました。

4月・仲春の候

・うららかな季節となり
ました。

10月・仲秋の候

・青い空に秋の深まりを
感じる季節となりました。

5月・立夏の候

・風薫る季節となり
ました。

11月・立冬の候

・木々も葉を落とし、冬の
訪れを感じます。

6月・初夏の候

・あじさいが美しく咲く
季節となりました。

12月・師走の候

・年の瀬も押し迫ってまい
りました。